

【パターン】傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃>

- ・展開線が記入された原型やあらかじめゆとり分量や肩パット分量が展開されている原型、使用不可の袖原型等を誤って持参した受験者がいたが、原型を準備する際には注意すること。(ガイドブック・受験案内参照)
- ・課題のシルエットは、4面構成のパネルラインのジャケットである。原型のバストダーツを衿ぐり・袖ぐりに適正分量分散し、残りのダーツをパネルラインに展開しイセて処理するが、衿ぐり・袖ぐりへの分散が適正でないもの、イセ量が適正でないもの、イセとして処理されていないものがあった。
- ・構造線が違っているものや、切替え線の位置が不適切なパターンも見受けられた。3面構成と4面構成の構造の違いを理解するとともに、構造線によるバストダーツの展開も理解しておく必要がある。
- ・構造線を入れるとき、ウエストが角張っていたり、カーブが不適切に引かれているものがあった。本来はスムーズな線でつながなければならない。
- ・肩幅に対して背幅が狭いものなど、肩幅と背幅の関係が不適切なものがあった。肩幅と背幅の関係が不適切であるとアームホールを崩し、結果的に袖のシルエットも崩れてしまうので注意する。
- ・イセの入る縫い目線には合印をいれてイセる箇所を指定しなければならない。また、縫い止まり位置やウエストやネックポイントの位置などポイントになる部分には合印を適切に入れる。
- ・裾やネックライン、アームホールなどライン修正されておらず、シルエットに影響しているものがあった。トワルの組み立て前に修正をし、設定どおりのジャケットが組めるようにして頂きたい。

<ボタン、ポケット>

- ・ボタンの大きさやフラップの大きさがデザインに合わないものが多くあった。デザイン画をよく見て、大きさや形状・つけ位置などバランスよく記入する。
- ・ポケットのつけ位置もトワルに移す前につなぎりや長さの修正をして、正確につけていただきたい。

<ラペルと衿>

- ・今回の衿はショールカラーに切替え線の入ったデザインである。上衿とラペルの幅が極端に狭かったり、広かったり、外回りのつながりが悪いもの、切替え線の位置が違うものなど、デザインを読み取るところまで至っていないものがあった。
- ・衿の作図法はさまざまあるが、後ろ中心での衿腰と衿幅の関係、衿付け線と外回りの関係が悪いために減点されたものも多くある。今一度、衿の作図を復習していただきたい。

<袖>

- ・袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、高すぎたり、低すぎたりするものがあった。袖山の高さは袖幅にも影響するので注意する。さらに、袖山のいせ分量が多すぎたり寸法が不足していたり、袖山の形状が不自然だったりするものが目立った。
- ・2枚袖の切り替えも縫い目として、袖の形状として適切なカーブで描かれていなければならない。事前の練習が必要と思われる。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは各パーツ別々にトレースをして、必要な記号などを記入することで確実に点数

を取れるようになったと思われる。

- ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること、全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状やつながりが縫製時を設定して考えられていることも大切である。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。線が蛇行しているものなど2級の完成度に達していないものが多かった。
- ・課題に設定された着丈や袖丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタンなどが記入されていること。衿、ポケットなど、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパターンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。
- ・最後に、ファーストパターンとは作図パターンを別紙にパーツごとにトレースして、名称、記号、合い印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。ただし、フラットパターンメイキングで作業をおこなった場合は展開した原型や作図、展開パターンの添付も必要である。